

令和 6 年度

運営に関する計画

(最終評価)

大阪市立波除小学校

令和 7 年 2 月

大阪市立波除小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上 にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 学校アンケート「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上 にする。</p> <p>② 学校アンケート「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上 にする。</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの認知について、文部科学省から示された捉え方を教職員間で共有し、実態の正確な把握に努める。 いじめアンケートを毎学期行い、いじめの早期発見を図り、解消に向けて組織的に取り組む。 <p>指標 ①学校アンケート「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上 にする (R5 82%) (R6 前 84.8%) (R6 後 88.7%)。</p> <p>A…81%以上 B…75%～80% C…75%未満</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他を尊重し、誰もが安心して過ごすことができる学級経営、学年集団づくりの取り組みを推進する。 不登校対策委員会を学期に1回開き、不登校児童の実態について共通理解を図り、対策を組織的に協議していく。 <p>指標 ①全体における不登校児童の割合を増やさない。</p> <p>(R5 2.9%) (R6 前 1.1%) (R6 後 1.3%)</p> <p>A…減少した、もしくは改善傾向が見られる B…現状変化なし C…増加した、もしくは改善傾向が見られない</p> <p>②不登校対策委員会や研修会を開く。</p> <p>A…4回以上 B…3回 C…2回</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別の教科「道徳」の指導要領における内容項目(A)主として自分自身に関する「個性の伸長」をねらいとする授業や取り組みを定期的に行い、指導にあたっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、自尊感情を高めるようにする。また、体験活動等を通して、何事に対しても主体的に取り組む姿勢を育て、日々の学校生活に充足感をもたらせる。 	A

指標	①前期・後期と2回実施する学校アンケート「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする	
	(R5 82%) (R6 前 84.6%) (R6 後 85.2%)。	

A…81%以上 B…75%～80% C…75%未満

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- いじめアンケートを実施し、事案が発生したときには丁寧に聞き取りをしていじめの早期発見・解決に努めた。また、各学年で起きた小さな出来事でも毎月の生活指導部会で共通理解し学校全体で情報共有を行った。
- 学校アンケート「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して肯定的に回答する児童の割合が、児童は約88.7%で前期と比べ4ポイントほど上回った。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- 5月には、外部講師を呼び学校で不登校研修会を開き不登校児童に対する対応の仕方などを学び取り組んできた。また、SC・子供相談センター・区役所など外部機関と繋ぎ連携し昨年度より学校に登校しようとする意思がみられる児童が増えてきた。不登校対策委員会は、定期的に開き全体で情報共有を図ったことで全教職員に学校の実態を把握することができ、どのような働きかけをしてきたのかわかることができた。

取組内容③【基本的な方向2 安全・安心な教育環境の充実】

- 道徳の授業を充実させ、自尊感情を高めるように指導できた。道徳所見についてフォーマット化を図り、評価の均質化と効率化を図った。
- 「いいとこみつけ」を継続的に行い、児童がお互いに褒め合ったり認め合える活動も取り入れて自分の良いところを発見できた。また、異学年での「いいとこみつけ」も行ったことで新たな自分のいいところを再発見できた。
- 学校アンケート「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合が、児童は約85.2%で指標を上回った。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- いじめ案件について、学年によって同じ事案でも受け止め方が違うので共通理解を図る必要がある。
- 「心の天気」の入力を徹底しながら、その結果をもとにいじめの早期発見につなげていく。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- 不登校児童の支援体制を整備。保護者の協力が必要不可欠なので家庭連絡をこまめに行うなど家庭への働きかけの方法を考えていく必要がある。
- 毎月の職員会議後に簡潔に不登校の情報共有する時間を設けてもいいのではないか。

取組内容③【基本的な方向2 安全・安心な教育環境の充実】

- 「いいとこみつけ」は、定期的にナミーゴ班を活用した行事と絡ませて行うなど、次年度の実施方法を検討していく。
- 体験的な活動を取り入れた行事や校外学習などを再考する必要がある。

(様式2)

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校)	
<p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を39%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一分母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.4%以上にする。</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を前年度より2ポイント向上させる。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・国語科を中心に、自分の考えや思いを表現する力を身につけるための指導を工夫する。 指標 ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を39.0%以上にする。 (R5 38.8%) (R6 前 55.9%) (R6 後 59.5%) 経年調査：47.1% (3=64.5、4=54.7、5=34.7、6=34.4) A…40%以上 B…35%～40% C…35%未満	A
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・「学習の日」を設定し、放課後の個に応じた指導を充実させる。 ・朝学習や授業で活用できる、個人の学習課題に応じた学習教材を工夫する。 指標 ②小学校学力経年調査における国語の平均正答率を、同一分母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 (R5 国語 3年 102.1% 4年 100.1% 5年 101.4%) (R6 国語 3年 103.1% 4年 100.2% 5年 101.8% 6年 100.7%) A…2ポイント以上 B…2～0ポイント C…マイナスポイント	C
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・モジュールの時間を通じて、楽しみながら外国語(英語)にふれることができるようとする。 指標 ③小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R5 78.0%) (R6 前 73.1%) (R6 後 71.7%) 経年調査：68.75% (3=80.7、4=73.2、5=71.6、6=49.5) A…81%以上 B…75～80% C…75%未満	C

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ・全校児童が運動に取り組める内容を工夫する。
- ・副読本や動画撮影などを通して技能の習得に向けた気付きを増やし、すすんで運動をしようとする意欲を高める。

指標 ④小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

(R5 69.2%) (R6 前 68.7%) (R6 後 70%)

経年調査 : 69.25% (3=77.4, 4=72.1, 5=68.4, 6=59.1)

A…70%以上 B…69～65% C…65%未満

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・研究教科である国語科の学習を中心に、各教科の授業で話し合い活動を多く取り入れてきた。話し合うことで自分の考えが深まったり広がったりしている児童が増えてきた。

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・学習の日や放課後などの時間に個に応じた指導をしてきた。
- ・朝学習では、視写の取り組みや新聞記事から自分の考えをまとめる取り組み、補充プリント、デジタル教材などに取り組んだ。

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・モジュールの時間に DREAM や NHK for schoolなどを活用し、楽しんで英語にふれてきた。

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ・ナミーゴ班活動として校内でドッジビーを実施し異学年で運動に親しんだり、かけ足週間を設けて意欲的に運動に取り組んだりすることで健やかな体の育成に努めた。
- ・体育カードや副読本、動画資料や ICT 機器などを活用することで、技能の習得をさせてきた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・今後も話し合い活動を多く取り入れ、児童の考えが深まったり広がったりできるよう継続して指導していく。

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・朝の学習の取り組みも個に応じた指導を継続していく。

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・モジュールの指導を通して、楽しみながら外国語にふれることができるようしていく。
- ・C-NET の先生がモジュールタイムに各学級に来てもらい、外国語で会話を楽しむ時間を設けてはどうか。

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ・全校朝会や児童集会など、全校児童が集まる場での運動機会の確保など全校で運動をする取り組みの計画案を年度当初に検討していく。

大阪市立波除小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%にする。 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する基準1(1ヶ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下)を満たす教職員の割合を70%以上にする。 学校の年度目標 ① 児童の読書環境の充実のため、学校図書館の活性化、区図書館、図書補助員との連携を強化し、学校アンケート「本を読むことが好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 (R6前76.3%) (R6後72.5%)	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・心の天気等の入力内容をもとに児童の実態把握・指導に生かす ・デジタルドリル(navima)を活用した自学自習を推進する。 ・デジタルコンテンツの活用による教材のペーパーレス化を図る。 ・デジタル教科書・教材を活用した授業の実施をする。	A
指標 ①児童が学習者用端末やデジタルドリル(navima)を週に3回以上活用する。児童アンケートで「デジタル教材を使った学習は楽しいですか。」の質問に対して、肯定的な回答の割合を75%以上にする。 (R6前85.8%) (R6後86.5%) A…76%以上 B…71～76% C…71%未満	A
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・働き方改革を学校全体として推進していく。 ・会議の精選を行う。 ・ICT活用等による業務の効率化を図る。 ・NO会議デーを設定する。 ・セット時間の設定、厳守を行う。 ・スクールサポートスタッフに印刷業務などを振り分ける	A
指標 ②1ヶ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下の教職員の割合を55%以上にする。 (R5 51.3%) (R6前67.5%) (R6後65.8%) A…52%以上 B…47～52% C…47%未満	A
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ・児童の読書意欲を向上させていくために研究組織内に読書部を立ちあげ、読書活動の推進を担っていく。 ・木曜日の全校読書の時間や読書朝会を設定し、読み聞かせや読書時間、本の紹介の機会を充実させる。	A

- ・毎日の図書館開放や市立図書館の団体貸し出しを行い、多くの児童が多様な本に触れることができるようとする。
- ・読書の楽しさを伝えるための取り組みを児童が主体となって行えるように工夫する。
- ・保護者や地域の方の読み聞かせを行うことで、家庭地域を含めて児童の読書習慣や読書意欲を高めができるようとする。

指標 ③児童アンケート「本を読むのが好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する割合を70%以上にする。(R5 69%) (R6 前 76.3%) (R6 後 72.5%)

A…70%以上 B…69～65% C…65%未満

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

- ・「心の天気」を入力する時間を設けたため、多くの児童が進んで入力するようになった。一方、入力忘れ等の児童も一定数いるので、個別に入力確認の声掛けも必要である。
- ・ナビマを活用することで、学習内容の定着の一助になった。課題が早く終わった際など、自分の習熟度に合わせて積極的に取り組む姿も見られた。
- ・デジタル教科書を活用して、授業の中で視覚的な支援としたり、映像資料を見せてより具体的な学習内容の指導に活かすことができた。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ICTを活用することで会議の精選や時間短縮につなげることができた。
- ・スクールサポートスタッフの方に印刷等の業務を頼むことができるため、授業準備や行事の準備等に時間をかけることができるようになった。

取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・休み時間の図書館開放や週末の宿題の読書（親子読書）を通して、本に触れる機会を多くすることができた。
- ・図書だより・図書委員会による本紹介などでさまざまな種類の本にも触れられる機会があり、読書への興味・関心が高まった。
- ・なみっこや、さざなみの方の読み聞かせを楽しみにしている姿が見られた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

- ・「心の天気」の入力について今後とも徹底できるように児童への声掛けや習慣化に取り組んでいく必要がある。
- ・授業の中で活用できるICTについての研修を行うようとする。
- ・ナビマの進捗状況や使用状況について教員が確認しながら、学級児童の実態に合った活用の仕方で推進していく。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・業務の内容に合わせて、校務系・学習系と連絡がスムーズにいきわたるように情報・連絡共有の方法について検討する必要がある。
- ・スクールサポートスタッフに頼めることを学校内で共有することで、より業務の割り振りをおこなっていく。
- ・今年度行った高学年の教科専科は、来年度も継続して行った方がよい。2教科の教材研究をする時

間がなくなったことで、業務が大幅に軽減された。また、同一教科を3学級で行う方が成績処理の負担軽減になる。さらに、複数の目で子どもたちと関わることができるために、生活指導に費やす時間が減ると考えられる。

取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- これまで行ってきた活動を継続的に行いながら、より多くの児童が読書に親しむことができる取り組みを行っていく。読書嫌いな子どもに対してや、幅広い読書への指導法を工夫する。
- 学校だけでなく家庭での読書習慣も身に着けられるよう、保護者にも啓発をしていく。
- 地域の方による読み聞かせ(なみっこさん)を行ってくださるのはとても貴重な機会であり、選定する図書について地域の方と共有する機会があれば一層の効果も期待できるので検討する。
- 目標の変更も検討していく。(読む機会の確保など)